

2021 丹波縄文の森塾（3・4日目）

新型コロナウイルス感染症予防のため、昨年度に引き続き残念ながら本年度も縄文キャンプを中止し、その代わりに7月30日（金）と31日（土）の2日連続（日帰り）で縄文の森塾を開催しました。

【7月30日（金）】

この日のプログラムは、縄文土器の野焼きと里山の昆虫観察です。また、サポーターの皆さんと一緒に昼食の夏野菜カレー作りと飯盒炊さん（飯盒炊飯）にも挑戦しました。

縄文土器の野焼きでは、陶芸家の宮本ルリ子先生と市野麻由子先生の指導のもと、7月10日に粘土で成形した土器を野焼きにしました。まず、焚き火の周りに土器を並べ、土器を少しずつ回しながら2時間程かけてゆっくり温めます。その後、たき火に金網を乗せ、その上に土器を並べて焼きます。また2時間程この状態で焼いた後、土器の上にも枯れ枝や薪を乗せて焼き、最後、みんなで沢山の枯れ草を放り込みました。すると炎が4メートルほど高く燃え上がり、「わー！」と歓声があがりました。その時、遠くで消防車の音が聞こえたので、「誰か通報したのかな？」「どうしよう！」とびっくりする塾生もありましたが、どこか別のところに向かっていくようで安心しました。この火が燃え尽きると、上にトタンを敷いてゆっくりと自然に冷まし、翌日、土器を取り上げます。「割れないかな！」と少し心配する声と「どんな色になるのかな！」と楽しそうに話す声が聞かれました。

里山の昆虫観察では、丹波篠山自然塾 むしクラブ代表の大塚 剛二先生から里山に棲む様々な昆虫の話、マムシやスズメバチなど危険な生き物や対処法などについて説明を受けた後、網を持って里山に向かいました。クヌギなどの樹液に集まる甲虫やチョウ、草むらに隠れるバッタ、木の上に止まるセミなどを探して回りました。この日は、カブトムシ、ミヤマクワガタ、カナブン、ミヤマカミキリ、ゴマダラチョウ、アブラゼミ、ヒグラシゼミ、ショウリョウバッタなど沢山の昆虫を採取し、大塚先生からそれぞれの昆虫について説明いただきました。

昼食づくりでは、夏野菜カレー作りと飯盒炊さんの担当に分かれて体験しました。夏野菜カレー作りでは、サポーターから包丁の使い方などを教わりながら、タマネギ、ニンジン、ナス、カボチャ、ピーマンなどの夏野菜を切っていきます。経験があり最初から上手にできる塾生もいれば、初めての経験で恐々と包丁を使う塾生もありましたが、徐々に慣れてうまく使えるようになりました。その後、具材を鍋に入れて炊き上げ、カレーのルーを入れて出来上がりです。

飯盒炊さんでは、角谷アドバイザーから飯盒やその使い方などについての説明を受けた後、飯盒の蓋でお米の量を量り、水を入れて用意します。そして、マッチで枯れ草に火をつけ、枯れ枝を入れて焚き火をします。その上に金網を敷き、飯盒を乗せ30分程で炊き上げます。最後に飯盒をひっくり返し全体に蒸らして完成です。マッチで火を付けることも初めてという塾生も多く、珍しそうに、そして楽しそうに飯盒炊さんを体験しました。

昼食には、みんなで作った夏野菜カレーとトマトやキュウリなどを頂きました。飯盒のご飯は少し固めではありましたが、何度もお代わりする塾生もあり、やっぱり自分達でつくったカレーは格別の味でした。

【7月31日（土）】

この日のプログラムは、里山の昆虫観察、縄文土器作り（土器上げ・講評）、ツリーイング、里山遊びです。

まず、前日に引き続き里山の昆虫観察から始めました。あらかじめ仕掛けておいた捕獲器に何が入っているか確認していきます。捕獲器はペットボトルで作ったもので、中にはバナナなどで作った餌を入

れ、昆虫が匂いにつられて入ると出られなくなります。この日もカブトムシ、ミヤマクワガタ、カナブン、シロテンハナムグリ、コメツキムシ、オオトモエ（蛾）など沢山の昆虫を採集し、観察しました。

続いて、縄文土器の土器上げです。陶芸家の宮本ルリ子先生、そしてこの日は市野和俊先生の指導のもと昨日から野焼きしていた土器を取り出します。宮本先生は、「今年は例年より分厚く土器を作ったので、中までしっかり乾燥してないと爆発する。」と心配されていましたが、爆発した土器はなく、「土器らしいすごくきれいな色が出ている。」とホッとされていました。市野先生も「すごく良い感じに焼けていますよ!」と感心されていました。また、塾生からは「思っていたよりきれいに焼けて嬉しい!」「とれてしまうかと心配だったところが大丈夫だったので良かった!」と喜びの声が上がりました。

昼食には、サポーターさんが作ってくれたちらし寿司と、キノコたっぷりのすまし汁を美味しくいただきました。

午後は、2つのグループに分かれて、ツリーイングと里山遊びを体験しました。

ツリーイングでは、専用のロープを使って高い木に登ります。まず、装具とヘルメットを付け、ふくちゃん、あにい、はたぼうの3人のインストラクターから、いかに安全に登っていくかの説明を受けてから、高い木から吊り下げられたロープを登っていきます。経験があつてすぐにスイスイと高くまで登っていく塾生、初めての経験で最初はコツをつかめずに苦労する塾生など様々でしたが、時間がたつにつれ全員うまく登れるようになり、高いところから見下ろす景色を楽しんでいました。

里山遊びでは、杉本サポーターの指導のもとに竹を使って水鉄砲を作っていました。まずは水鉄砲の胴体（筒）部分を作ります。竹を片方に節の部分を残し、ノコギリで30cm程度の長さに切ります。そして節の部分の中央にキリで発射口の穴を開けます。続いて細い竹の先に布を巻き紐で縛り、水を押し出すピストン部分を作ります。発射口の穴の大きさやピストン部分の太さの調整が中々難しく、最初はなかなか遠くまで水が飛びませんでしたが、杉本サポーターと相談しながら何度も調整して仕上げていきました。遠くまで飛ばせたときは爽快、的を狙って当たったときには嬉しい歓声が上がりました。

縄文土器づくり





土器焼き



土器上げ



講 評

里山の昆虫観察





昼食づくり(夏野菜カレー・飯盒炊さん)



夏野菜カレーづくり





飯盒炊さん



昼食

ツリーイング





里山遊び(水鉄砲)

